

出遇い ――玄原道造記念館―

〈ゆめはいつもかえっていった

山のふもとのさびしいむらに〉

つたに蔽われた小さな小屋の

木の扉をあけて

二十四歳の純粹な心のままに逝った

詩人の魂は

わたしの心をふるわせる

五十余年を経ての奇しき邂逅

秋草に風がたち

詩人のことばさながらに

かすかにひびく虫の声

いつも変らぬ

自然の営み

時空を超えて

抱きつづけた

詩人へのあこがれ

上田 信濃デッサン館

